

令和6年度 自己評価・学校関係者評価

令和7年3月22日
明美ヶ丘こども園

1. 本園の教育目標

- ・明るく健康で、生き生きとしている子ども
- ・自分で考え、工夫し、意欲を持って取り組む子ども
- ・心豊かな、思いやりのある子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1, 幼児部・乳児部・チューリップクラブの3部署が、明美ヶ丘こども園として一体化を意識した安全管理
- 2, 子ども達に育てたい力を職員全員が共有した上で、保育活動の見直しをはかり、実践していく

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	<p>◎幼児部と乳児部の連携を進め、安全管理を見直していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員室ホワイトボードに全部署の予定記入し、全職員が目を通す ・交流する機会を作る ・チェックリストの検討 ・乳児部0・1歳児と2歳児の保育室が離れたことによる新たな課題を探り検討（乳児部） ・不審者対策として外部機関の協力を得る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全部署が把握できる日程表を、教員室に掲示することにより、確認しやすくなった。また、今まであちこちに情報が分散されていたので、1枚に集約され、ホワイトボードもスッキリした。 ・チェックリストは、点検する順番に入れ替えたり、必要な項目を見直した。 ・事故防止チェックリストは、学期末に振り返りをしていたが、より意識を高めるために、長期休み明けや学期の途中で振り返っても良いのではないかと感じた。 ・年少園外保育事故防止チェックの運用は、園外保育が2学期からだったため、2学期から始めた。園外に出る際の気を付ける点について、細かくリスト化されていて、意識づけになった。園外保育に行く前によく確認すると良い。 ・乳児部との交流は色々な形で実現できた。特に2歳児は年長との交流の機会がたくさん設けてもらい、子ども達に良い刺激となった。 ・乳児部も幼児部同様無線の導入を検討したが、導入には至らなかった。iPhoneを2台から3台に増やしてもらえると良い。 ・不審者対応訓練は西警察署に依頼した。初めて外部機関に依頼したことで、子ども達も楽しく学ぶことができた。今後、実践や保育者向けの対応訓練も実施していくと良い。 ・年中の不審者対応訓練は、マリンピアに行った際に実施。外部機関の協力はないが、運転手さんにも事前に訓練内容や流れの詳細は伝えておき、連携を図った。
2	<p>◎園児数及びクラス数を見据えた、カリキュラムや行事の見直しに取り組む</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の園児数を見据えるのが難しかった。 ・その年度ごとに合うやり方を考える必要がある。 ・気候の変化、長時間保育の園児の増加など現状を考えると、保育内容や活動の仕方を更に検討していく必要がある。 ・保育室の使い方を工夫し、学年の活動に合った形にできた。 ・年中・年少共に、1クラスになったため、競技内容を変更した。今年度の子ども達には、合った内容となっていたと思う。 ・劇の会は、クラス数が減ったことにより、前半後半に分けて3学年が一日で実施できるようにした。 ・乳児部は、進級説明会の時期とやり方を変更した。 ・乳児部進級式は今年度から1号認定の園児もいることを考慮し、3学期終園日に合わせて実施した。
3	<p>◎園内研修の充実と保育の質の向上に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で教育方針・教育理念 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育コーディネーター招いての研修ができたことは、成果があったが、同時に園内研修の充実を図る必要がある。 ・乳児部は各学年で問題点となっている事案を園内研修で取り上げていく形にした。次年度は良かった点、悪かった点を見直し、やり方を

<p>の再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～5歳までの全体の育ちを共有する ・外部講師からアドバイザーを招く 	<p>検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の方に限らず、互いの保育を見られる機会があると良い。経験の浅いTは、関わり方や方法を知ることができて助かる。 ・評価項目をもう少し具体的にしていく必要があったのではないかと。 ・2歳児室が幼児部エリアになったことにより、幼児部との交流が盛んになった。それに伴い、0・1歳児へも関心を持ってもらうきっかけとなった。 ・リーダー会によって、全部署で情報共有をする機会ももてるようになったが、部署によって集まることのできる時間が異なる(概ね、幼児部は15時半～、乳児部は13時～又は16時半～、延長保育担当は午前中に時間確保可能)ため、全体で研修を持つことが難しいので、共有の仕方を再度検討していく必要がある。
--	---

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつではあるが、変えられることは変えていくことができた。今後も園児数やクラス数の変化が予想されるため、その年度に合ったやり方を検討、実践、振り返りを繰り返す必要性がある。 ・前回の学校関係者評価にて、小学校では不審者対応訓練を西警察署に依頼していることをお聞きし、今年度園でも依頼することができた。園内だけでなく、外部の方々の意見を聞くことの大切さを感じた。 ・0、1歳からの進級児の割合が増えているため、全部署での連携がとても重要になってきている。また、子ども達の生活スタイルも変化しているので、子どもの育ちをどう保障していくかが課題。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 学校関係者評価委員会の評価

- ・明美の良さを、もっと発信していったら良いと思う。
- ・特に園生活の集大成とも言える、子ども達自身で考えて作り上げる劇の会は、貴重な経験だと実感している。
- ・色々な子どもを受け入れている明美だからこそ、親が教えなくても、自然と育つ心もあると感じている。
- ・見学者にもっと明美をアピールしていったら良いと思う。
- ・五十嵐小学校は、R7年度1年生1クラス約30人の4クラスになる予定。近隣の保育施設との大きな違いは、やはり子ども一人に対する大人の人数。
小学校も教科担任制のように、複数人で子ども達を見守っていく体制をとっている。
1年生の内は、45分ずっと座って授業を聞くのではなく、15分を1クールとし休憩などを挟みながら授業を行うようにしている。
- ・小学校で感じることは、「言葉による伝えあい」が足りないことによるトラブルが増えている。自己表現できることが大切である。
- ・西区の不登校と認識されている児童数は多い。中学生になるに従い、少し減っているとのこと。
小学校にはSSR(スーパーサポートルーム)という教室があり、そこなら登校できる児童もいる。
中学も同様に様々な形の登校の仕方があり、以前よりは多様化してきているとのこと。
- ・学童保育も現状では施設が足りず、来年度は校内の教室を一部使用していくことになる予定。
- ・小学校と地域との連携の一環として、遠足に協力を要請している。
例えば、1年生～6年生までの縦割り班で地域内の遠足を企画し、そこに地域の方々にスタンプをもらって歩く、ウォークラリー的なことを行う等々
- ・定年の年齢が上がり、ボランティアを確保することも難しくなっている。
- ・働く保護者が増え、中学校も小学校の様にフリー参観日を設けようという動きがある。又、小学校同様ボランティアをなど保護者の参加を促すために、曜日や時間帯を違わせて設定したり・・・と工夫している。
- ・これからも、自分の命を自分で守っていけるように、訓練をしっかり行ってほしい。(子どもだけでなく、職員も含めて)
- ・チューリップクラブを利用していると、担任の先生と話す機会が減るのでコミュニケーションの取り方が難しいと感じる。自分自身も忙しいが、先生も忙しいのではないかとすると、些細なことで連絡するのもためらってしまう。
- ・小学校は個人相談を6月頃は全員、12月頃は希望制にしている。
- ・小学校も、参観日に合わせて引き渡し訓練を行うなどの工夫をしている。